

退院支援にかかる多職種研修会 (市内基本保健医療圏ごと) について

【目的】

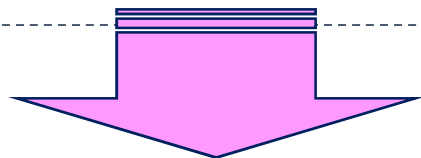
区域及び近隣区域の病院関係者と地域（在宅）の多職種が参画し、退院支援の視点について学びあうことにより、**多職種の連携を深める。**

【開催単位】

基本保健医療圏（北・西・東・南）

【対象者】

退院支援に関わる専門職・在宅医療や介護に関わる専門職・区役所職員



※コーディネーター連絡会等で基本保健医療圏域ごとに検討を繰り返し、開催日・内容を決定し、当日の運営にも協力を得て開催。

開催状況

●北部：北区・都島区・淀川区・東淀川区・旭区

【日時】令和元年8月3日（土）午後2時～4時30分 【場所】淀川区民センター ホール

【参加者数】 総数 155名（134名+コーディネーター 21名）

●西部：福島区・此花区・西区・港区・大正区・西淀川区

【日時】令和元年9月12日（木）午後2時30分～4時30分 【場所】福島区役所 6階会議室

【参加者数】 総数 134名（109名+コーディネーター 25名）

●東部：中央区・天王寺区・浪速区・東成区・生野区・城東区・鶴見区

【日時】令和元年10月5日（土） 午後2時～4時30分 【場所】リゲッタIKUNOホール

【参加者数】 総数 205名（178名+コーディネーター等 27名）

●南部：阿倍野区・住之江区・住吉区・東住吉区・平野区・西成区・

【日時】令和元年10月23日（水） 午後2時～4時30分 【場所】阿倍野区役所 大会議室

【参加者数】 総数 141名（125名+コーディネーター 16名）

北部：北区・都島区・淀川区・東淀川区・旭区

1) 講義

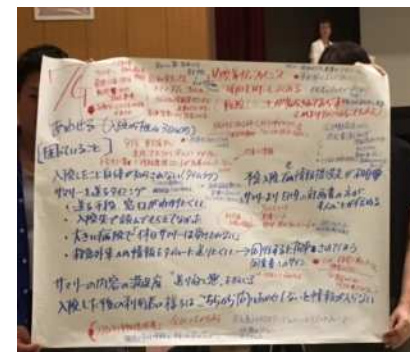
「大阪府入退院支援の手引きについて」

講師：都島区在宅医療・介護連携支援

コーディネーター 錦織 法子 氏

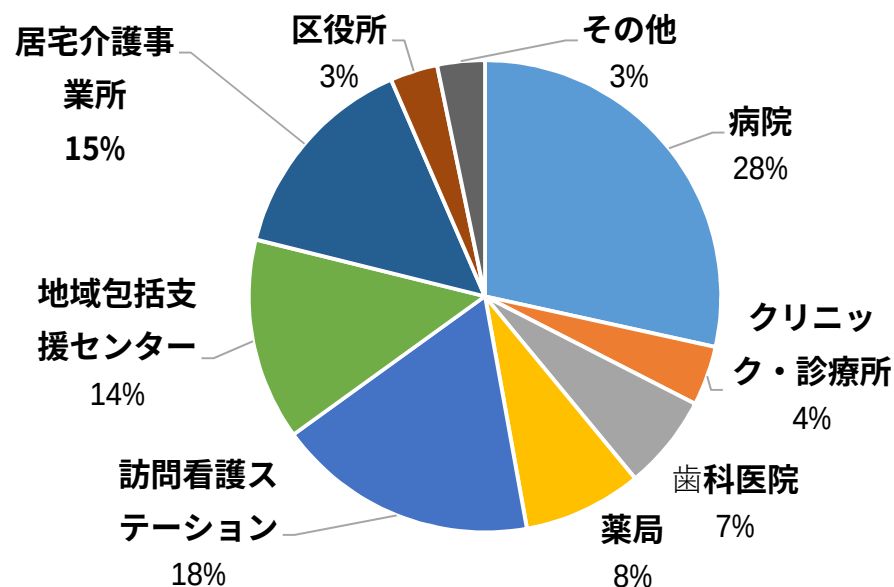
2) グループワーク（ワールドカフェ形式）

「入院時の1期 あわせるの課題共有」

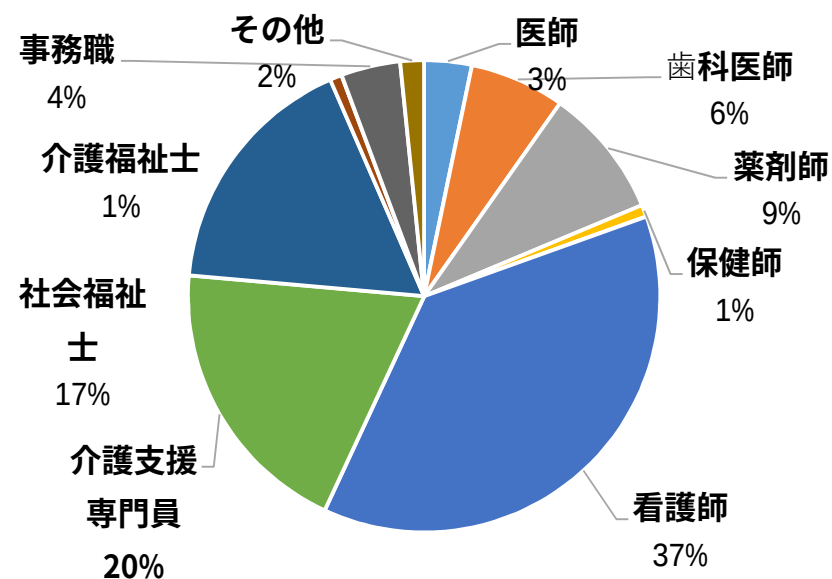


参加者アンケート【123名 回収率：91.8%】

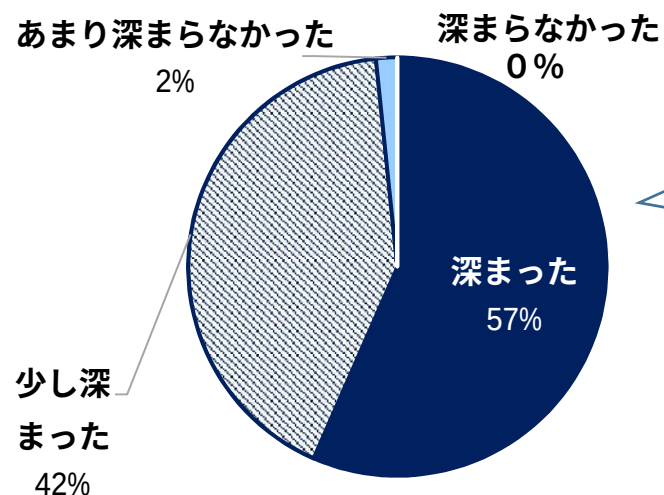
①所属



②職種

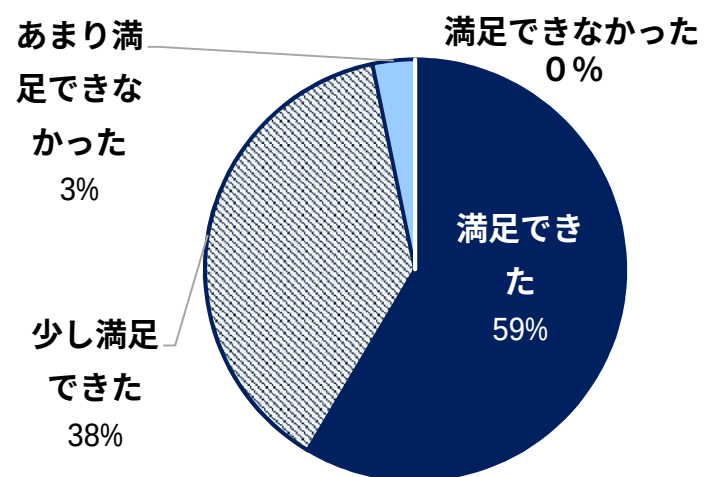


③グループワークでの他の職種への理解の深まり

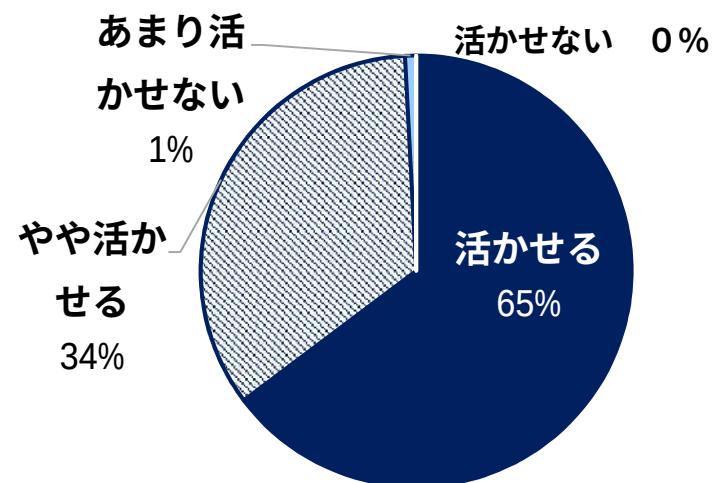


- ・ケアマネ同士では、お互いの悩みが共有できた。他職種での意見が聞けて、お互い歩みよりがあるのもわかった。(ケアマネ)
- ・他の職種で困っていることなどが分かり、今後スタッフに共有し、他職種との連携をこまめにしようと思った。(病院・看護師)
- ・どんな部分が分からない、こうしてほしいなどが分かった。(病院・看護師)

④グループワークでの満足度



⑤今回の研修会が今後どの程度活かせるか



西部：福島区・此花区・西区・港区・大正区・西淀川区

1) 講義

「退院支援の実際について～入退院支援の仕組みと病床機能～」

講師：JCHO大阪病院 医療福祉相談室室長 三村 麻紀子 氏

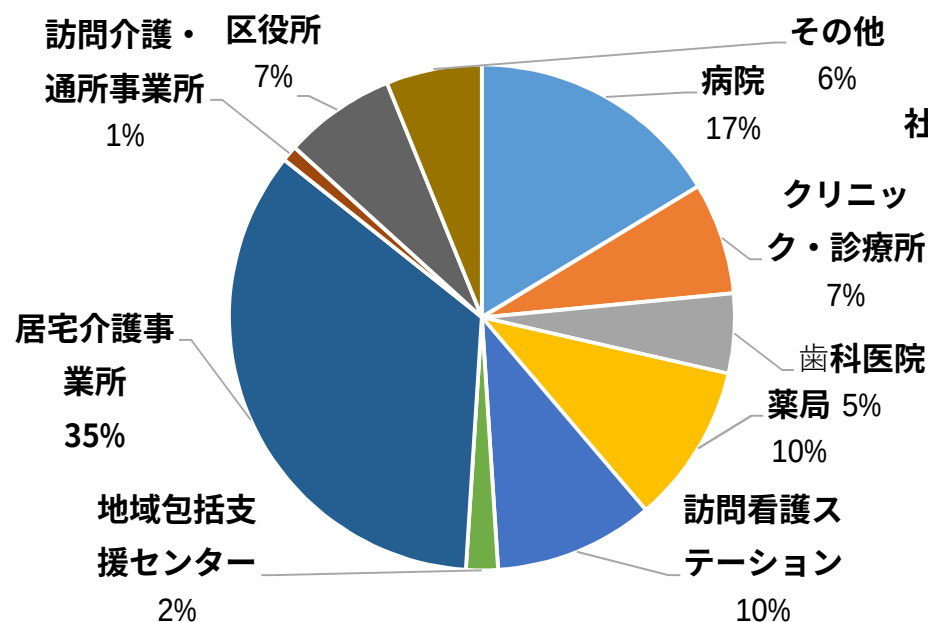
2) グループワーク

「事例をもとに考えよう～今できること・これからできること～」

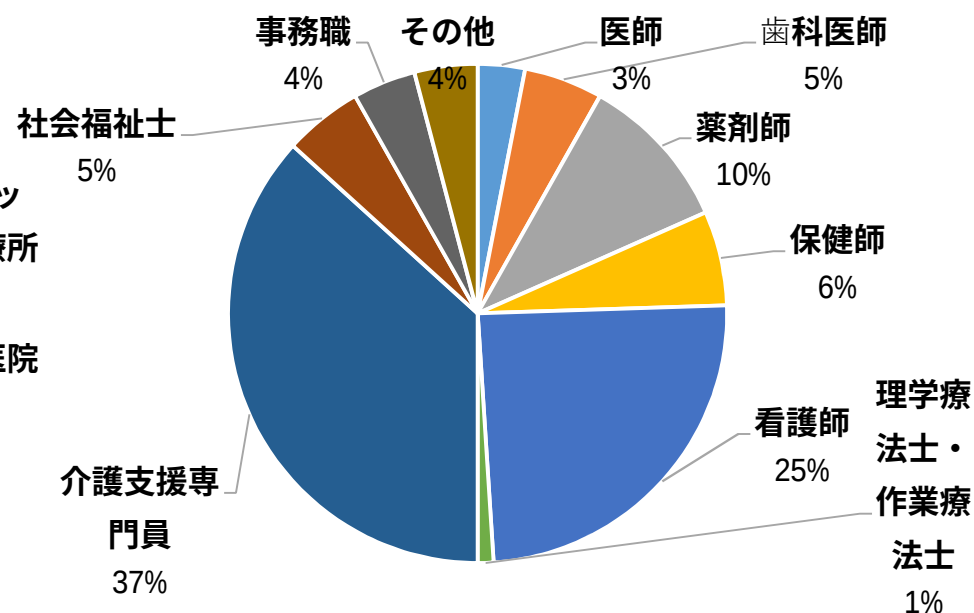


参加者アンケート【98名 回収率：89.9%】

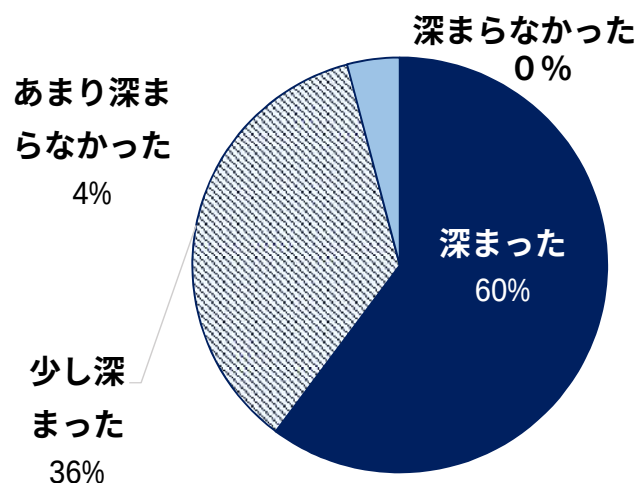
①所属



②職種

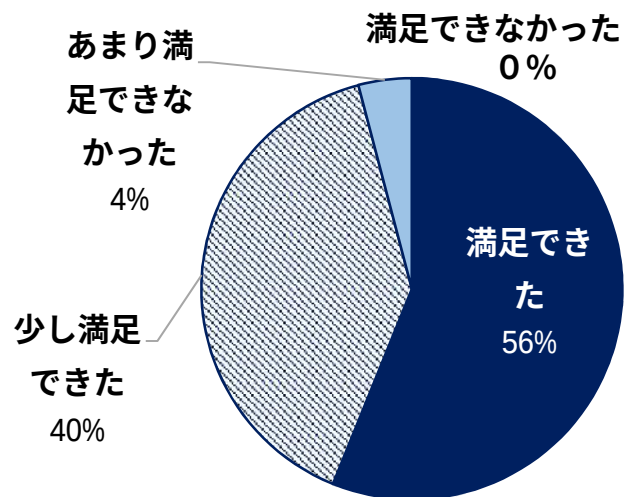


③グループワークでの他の職種への理解の深まり

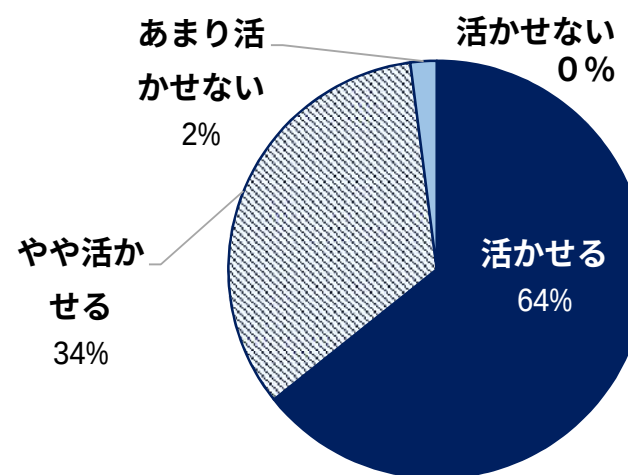


- ・在宅支援されている方が退院支援の流れを知らない、わからないと言われたので驚いた。
(病院・社会福祉士)
- ・地域の医師が参加されていたので地域医の意向が聞けた。(ケアマネ)
- ・わからなかった病院側のことなど知れた。
(ケアマネ)

④グループワークでの満足度



⑤今回の研修会が今後どの程度活かせるか



東部：中央区・天王寺区・浪速区・東成区・生野区・城東区・鶴見区

1) 講義：大阪府入退院支援の手引きについて

講師：東成区在宅医療・介護連携支援コーディネーター 黒田 和子 氏

2) パネルディスカッション：入退院支援の実際と課題

座長：浪速区在宅医療・介護連携支援コーディネーター 五十川 昌弘 氏

中央区在宅医療・介護連携支援コーディネーター 榮木 教子 氏

パネラー：大阪警察病院 地域医療連携センター 副センター長 岩藤 五月 氏

森之宮病院 医療相談室 副部長 藤井 由記代 氏

大阪医療センター 地域医療連携室 師長 増田 雅子 氏

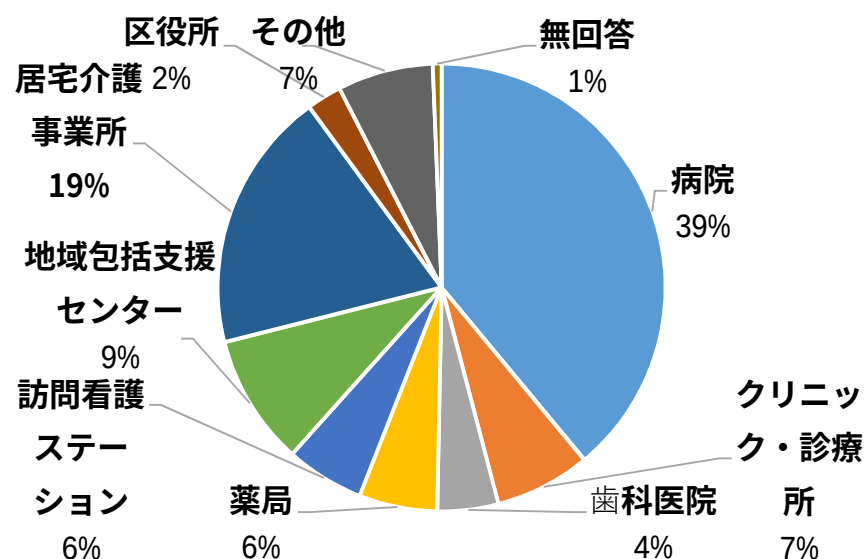
介護老人保健施設 れいんぼう夕陽丘 主任 佃 真吾 氏



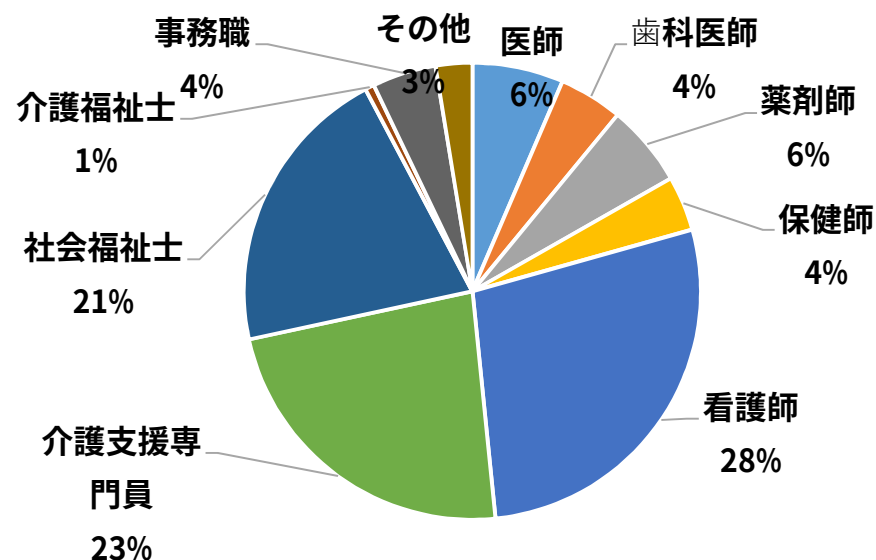
3) グループワーク（ワールドカフェ形式）他の専門職に困っていることを伝えてみよう！

参加者アンケート【159名 回収率：89.3%】

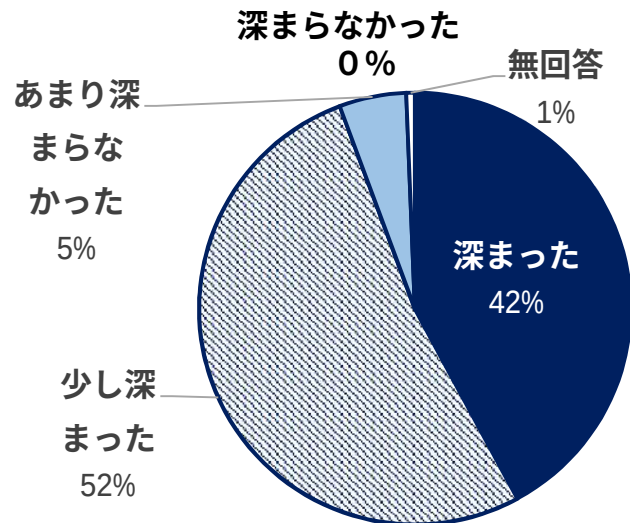
①所属



②職種

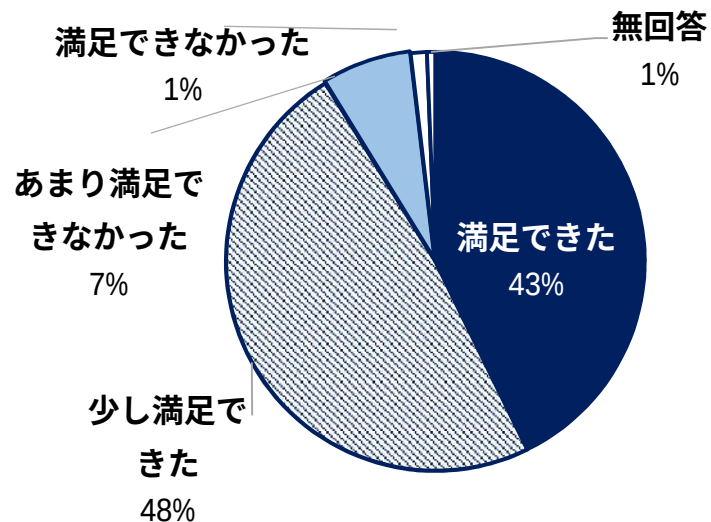


③グループワークでの他の職種への理解の深まり

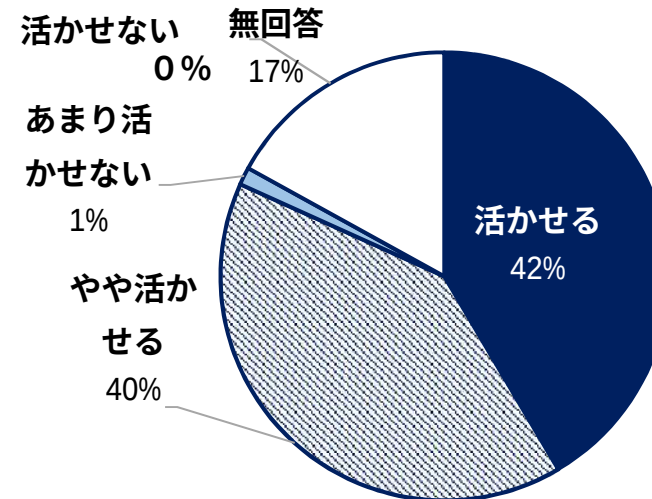


- ・他職種（特に三師会）とフランクに話し、質問が出来たので良い機会となった。（包括・保健師）
- ・それぞれの立場によって意見が違うので、そのすりあわせをするのが必要と感じた。（クリニック・看護師）

④グループワークでの満足度



⑤今回の研修会が今後どの程度活かせるか



南部：阿倍野区・住之江区・住吉区・東住吉区・平野区・西成区

1) 講義：「大阪府入退院支援の手引きについて」

講師：訪問看護ステーションゆいか

統括所長 錦織 法子 氏

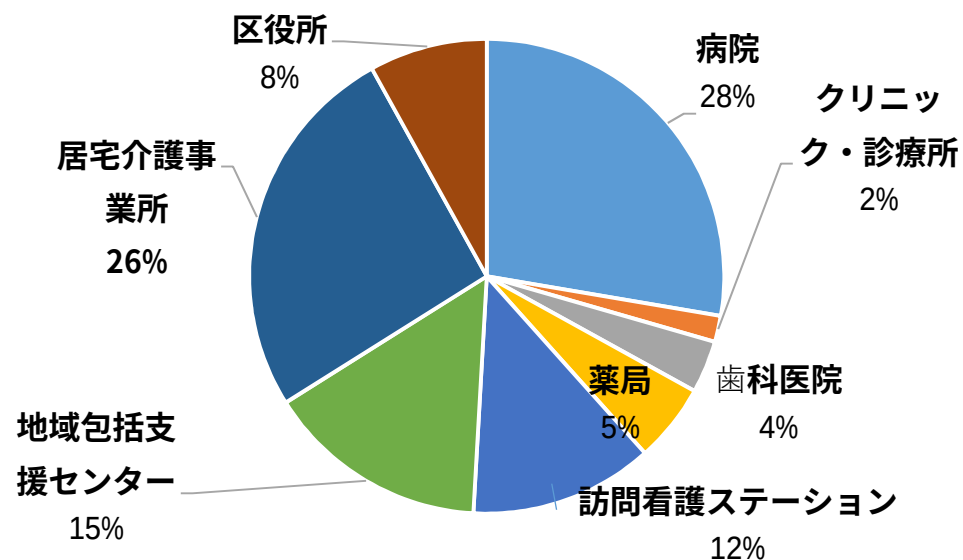
2) グループワーク：模擬退院カンファレンス

～「つなぐ」に焦点をあてて～

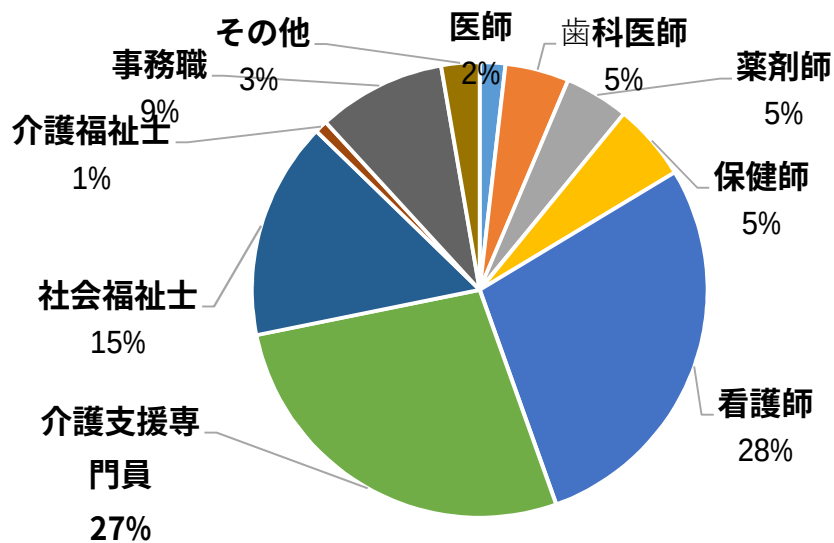


参加者アンケート【112名 回収率：89.6%】

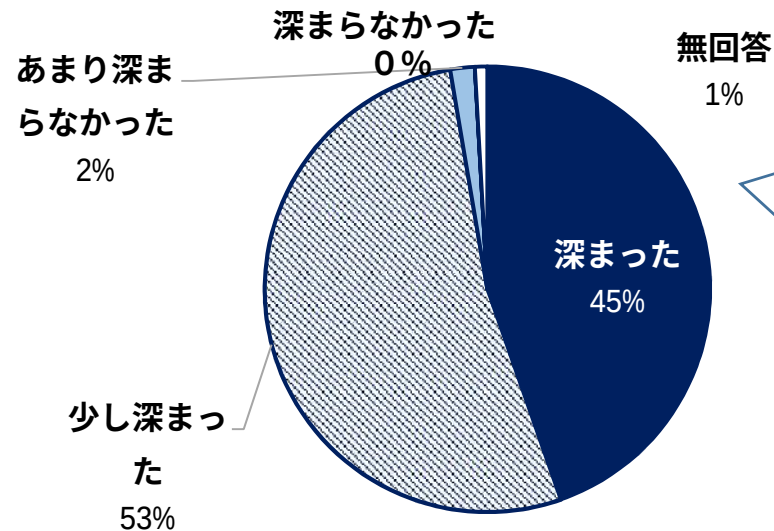
①所属



②職種

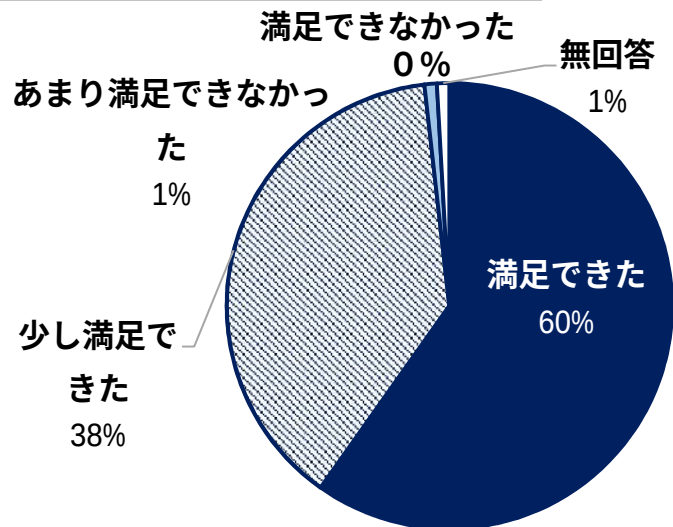


③グループワークでの他の職種への理解の深まり

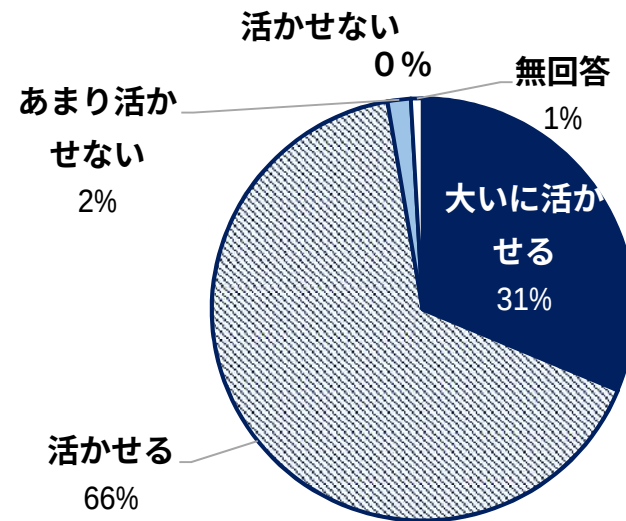


- ・自分の勉強不足を痛感している。
(病院・社会福祉士)
- ・他職種の体験によって気付くこともあり勉強となった。(ケアマネ)
- ・理解しているつもりがきちんと理解できていなかったと感じる。(包括・社会福祉士)

④グループワークでの満足度



⑤今回の研修会が今後どの程度活かせるか



意見・感想

【多職種との連携やその課題について】

- ・ 病院の機能や退院時のケアマネ・医療職両輪の動きを知れて良かった。
- ・ 病院側と在宅側での医療の認識が違っていたことがわかった。
- ・ 医療側は在宅をもっと知るべき、介護側は医療について知るべき、改めて感じた。
- ・ 在宅側だけでなく病院側の参加があり意見が聞けて良かった。多職種連携の研修があってもなかなか病院側の方まで参加しているものが少ないように感じていた。
- ・ 病院の困りごとに対する地域の意見、病院内や連携で課題が明らかになった。
- ・ 退院支援について多職種カンファレンスの重要性を感じた。
- ・ 各職種の役割やできることが理解できれば、在宅での暮らしが充実できる。

【広域での開催について】

- ・ 他区（周辺区）との情報交換はよかったと思う。
- ・ 区内の方だけでなく他区の方も参加しておられ区の違いを聞けてよかった。
- ・ 他区の連携方法等新しいことが知れて良かった。
- ・ 他区の情報をもっと知りたいと思った。

【今後に向けて・要望】

- ・ 連携を密にして情報共有していきたい。
- ・ 主治医・薬局との連携をもっとしたい。
- ・ 医療側にも介護がわかるように研修会をひらいて欲しい。
- ・ 連携が旨くできた事例の発表があればもっと良かったと思う。
- ・ 今回のようなブロック毎の研修など他区の状況が知れたり、交流できる様なものが良いと思う。
- ・ 在宅の医師は在宅組織との連携をとりやすい。病院の医師の在宅への意識が問題だと思うので意識改革をして欲しい。

コーディネーターからの意見・感想

【広域での開催について】

- ・ワールドカフェで、同職種と他職種の組み合わせとしたのは、とてもうまくいったのではないと思う。加えて、組み合わせは大変だったが、他区の専門職が同じテーブルを囲んで話し合う機会を提供できたことは、素晴らしかった。その結果、各テーブル活発な議論が展開されていた。
- ・他区が多職種と話し合えたことは非常に刺激になったと思う。
- ・研修参加者から他区の状況が分かって研修に参加して良かったと言って頂けたので、研修の準備等大変であったが研修の意義はあったと思う。
- ・広域での基本医療圏での開催は引き続き必要だと思う。
- ・近隣の地域での協働での取り組みについては、良いことだと思うが、もう少し地域を狭くしたり、規模を小さくする方が、もっと連携をしやすいのではないかと思う。
- ・合同はなかなか大変でとてもエネルギーだった。しかし、自分の区にとっても大きな意義があった。次期はこの研修を参考に、各区で特徴に合わせて行えば良いと思う。各区の事業とし、自主的に2区3区一緒に行うのも良いかもしれない。

【今後に向けて】

- ・今回のように該当区の人が内容を考えるのも1つの方法だが、同じ研修会を各ブロックで行っていくというのも良いのではないか。
- ・今回参加できていない人がおられることも含め、入退院支援については、何度か繰り返し取り組みたい内容だと思う。
- ・区を超えての連携は、今回の東西南北のブロック内だけに限らないことから、ブロック区切りを少しずつずらして組直し、連携研修を持つことも良いのではと思う。
- ・医師と介護側が交わるようなことがよいと思う。医師にたくさん参加していただけるようなこと。区ごとでもよいかもしれないが。